

エコアクション 21

環境活動レポート

平成 21 年度
(平成 21 年 4 月～22 年 3 月)



丸 喜 鋼 業 株 式 会 社

作成 平成 22 年 6 月 25 日

1. 組織の概要

①事業所名 丸喜鋼業株式会社
 代表者氏名 代表取締役社長 川口貴弘

②所在地 〒807-0811
福岡県北九州市八幡西区河北町1番3号

③環境管理責任者

取締役 佐藤伸二

担当者氏名

総務部課長 宇土義教

連絡先 : E m a i l : soumu@maruki-k.co.jp

電話 : 093-691-1300

FAX : 093-603-6534

URL : <http://www.maruki-k.co.jp>

④事業の内容

鐵鋼販売業

⑤事業の規模

活動規模	単位	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
主要製品生産量	t o n	23,896	17,940	13,717
売上高	百万円	3,712	3,338	2,052
従業員	人	44	44	36
床面積	m ²	4,396.62	4,396.62	4,396.62

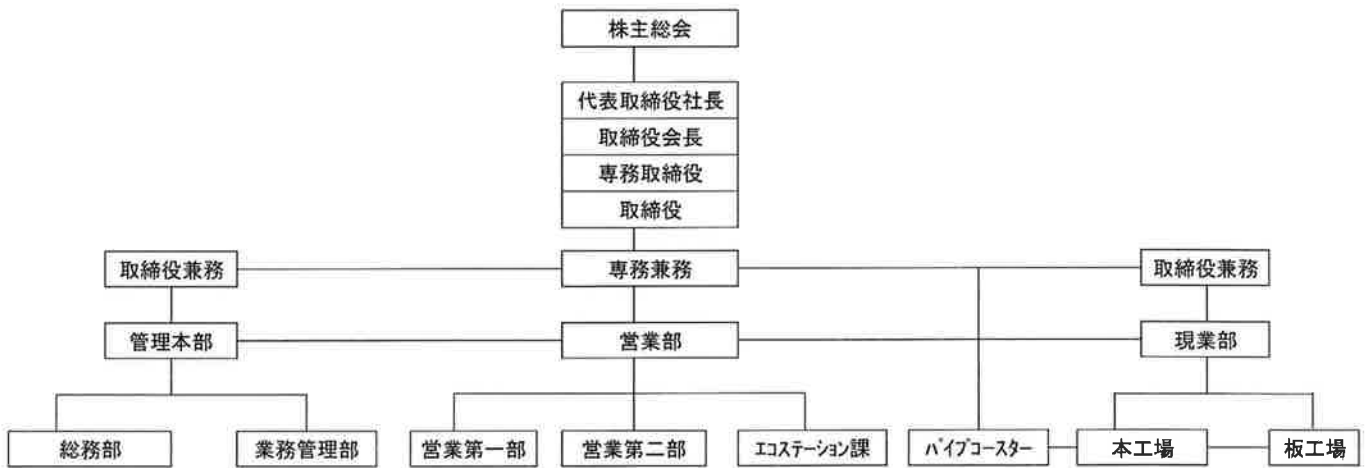
⑥事業の経緯

パイプの専門商社として1963年6月26日に、川口昭蔵が北九州市小倉北区にて
 資本金100万で創業。以来、お取引様とのご縁に恵まれ、順調に事業を拡大。今日では
 パイプの流通のみならず、切断加工、鋼管、鋼材、非鉄金属、配管材料などの専門商社として、
 確かな基盤を確立するにいたりました。

これからも感謝の心を忘れず、お客様と地域社会のニーズに応え、誠実をモットーに
 前進いたします

丸喜鋼業株式会社組織図

H22.4.19 現在
作成者:宇土



※認証登録の範囲＝全社

環 境 方 針

わが社は、企業活動を通じて地球環境の問題が人類共通の重要な課題である事を認識し、地球環境の保全に努め、環境と調和した豊かな社会づくりに貢献します。

1. わが社は、鉄鋼販売業の会社として全社員の英知を結集し、環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして環境目標を設定し、見直しなど効果的な取組みを行います。
 - (1) 水、電気、燃料等、資源やエネルギーの使用料を低減致します。
 - (2) 産業廃棄物の排出量を削減し分別を徹底し、再資源化を推進します。
 - (3) 環境改善に有益な購買品の活用及びプロセス改善を推進します。
2. 環境関連法令とわが社が受入れを決めた基準を遵守致します。
3. この環境方針のもとに自主管理基準を設け環境目的、環境目標を定め、見直しを行い環境管理のレベルの向上を図ります。
4. この環境方針を全体会議や経営企画室を中心とした委員会を通じて全社員に周知徹底すると共に環境保全の意識を高め、社内における環境保全状況の向上を積極的に行います。

平成18年9月27日
丸 喜 鋼 業 株 式 会 社
代表取締役社長 川口 貴弘

3. 環境目標と実績

①環境負荷の現状と環境目標の設定について

		単位	H19 年度	H20 年度	H21 年度
1	二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	241,639.8	217,858.7	199,526.0
2	廃棄物排出量	トン	3.48	4.41	4.16
3	総排水量（給水量）	m ³	1,662	1,505	1,690
4	グリーン購入の推進	品目総数	5	6	8
5	販売重量（扱い）	トン	23,896	17,957	13,717
6	加工重量	トン	5,591	4,053	2,971

この中で二酸化炭素排出量については、工場使用エネルギーについては、加工重量、販売に供する自動車燃料は、販売重量での対比にて行い目標を設定する。

②目標設定と実績

当社は、平成 18 年度（平成 18 年 11 月）からエコアクション 2.1 を構築し、環境活動に取り組んできた。

過去の環境負荷実績 H.17 年度を基準として H19 年度・H20 年度・H21 年度の目標と実績は以下の通りである。

環境目標	目標 実績	単 位	H.17 年 基準	H.19 年	H.20 年	H.21 年
二酸化炭素排出量の削減（工場）	目標	加工重量（t）	5,487	5,591	4,053	2,971
		加工重量当たり（Kg-CO ₂ /t）	—	2%削減 26.9 以下	3%削減 26.6 以下	4%削減 26.3 以下
	実績	排出量（Kg-CO ₂ ）	150,264	147,702	126,032	106,660
		加工重量当たり（Kg-CO ₂ /t）	27.4	26.4	31.1	35.9
二酸化炭素排出量の削減（販売）	目標	販売重量（トン）	24,092	23,896	17,957	13,717
		販売重量当たり（Kg-CO ₂ /トン）	—	2%削減 4.43 以下	3%削減 4.38 以下	4%削減 4.34 以下
	実績	排出量（Kg-CO ₂ ）	108,945	93,937	91,826	92,865
		販売重量当たり（Kg-CO ₂ /トン）	4.52	4.05	5.11	6.91
総合計		排出量総量	259,209	241,640	217,859	199,526
廃棄物排出量の削減	目標	加工重量当たり（kg/トン）	—	1%削減 0.651 以下	2%削減 0.469 以下	3%削減 0.465 以下
		総量（トン）	2.63	3.48	4.41	4.16
	実績	加工重量当たり（kg/トン）	0.479	0.622	1.09	1.4
総排水量の削減	目標	販売重量当たり（m ³ /トン）	—	1%削減 0.0564 以下	2%削減 0.0559 以下	3%削減 0.0553 以下
		総量（m ³ ）	1,369	1,662	1,505	1,690
	実績	販売重量当たり（m ³ /トン）	0.057	0.070	0.083	0.123
グリーン購入の推進	目標	エコ商品品目総数	—	5 以上	6 以上	8 以上
	実績	エコ商品品目累積総数	0	5	6	8

二酸化炭素排出量削減、廃棄物排出量削減、総排水量削減全ての面で目標は達成出来なかった。

3. 1. 今年度以降の目標（*註：中期目標）

環境目標	単 位	H.17年(基準) (17年4月～ 18年3月)	H.21年度 (21年4月～ 22年3月)	H.22年度 (22年4月～ 23年3月)	H.23年度 (23年4月～ 24年3月)	H.24年度 (24年4月～ 25年3月)
工場二酸化炭素 排出量の削減	加工重量当たり (Kg-CO ₂ /トン)	27.4 (基準)	26.3 以下 (4%)	26.0 以下 (5%)	25.8 以下 (6%)	25.5 以下 (7%)
販売部署二酸化 炭素排出量の削 減	販売重量当たり (Kg-CO ₂ /トン)	4.52 (基準)	4.34 以下 (4%)	4.29 以下 (5%)	4.25 以下 (6%)	4.20 以下 (7%)
廃棄物排出量の 削減	加工重量当たり (kg/トン)	0.479 (基準)	0.465 以下 (3%)	0.46 以下 (4%)	0.455 以下 (5%)	0.450 以下 (6%)
総排水量の削減	販売重量当たり (m ³ /トン)	0.057 (基準)	0.0553 以下 (3%)	0.0547 以下 (4%)	0.0542 以下 (5%)	0.0536 以下 (6%)
グリーン購入の 推進	エコ商品 品目累積総数	0	8 以上	10 以上	12 以上	15 以上

備考：(%) は、H.17年度実績をベースとして削減率を示す。

4. 主な環境活動計画

4. 1. 二酸化炭素排出量削減のための取組目標と取り組み方法

(1) 電気使用量の削減 (4%)

- ① エアコンの設定温度を決め、実行する (担当：宇土)
- ② 外出時はパソコンの電源を切る (担当：佐藤)
- ③ 工場不要時の機器の停止 (担当：佐藤)
- ④ 使用していない部屋やトイレは消灯する (担当：山中)
- ⑤ 昼休みは消灯する (担当：山中)
- ⑥ コピー機、FAX 機を省エネタイプの複合機に機種変更 (担当：佐藤)
- ⑦ 消灯シールを貼付し啓発 (担当：宇土)
- ⑧ エアコンフィルターの清掃 (担当：宇土)

(2) 灯油及プロパン使用量の削減 (各 4%)

冬場のストーブ運転時間の見直し (担当：佐藤)

(3) 軽油及ガソリン使用量の削減 (各 4%)

- ① アイドリングストップ手順を決め、実行する (担当：山中)
- ② エコドライブの推進 (担当：山中)
- ③ 不用な荷物は積まない (担当：山中)
- ④ 空気圧のチェック (担当：山中)

4. 2. 廃棄物排出量削減のための取組み

- ① 工程改善等による不良品発生率の低減 (担当：佐藤)
- ② 社内用文章の裏面コピーの徹底実施 (担当：宇土)

4. 3. 総排水量削減のための取組 (節水活動の推進)

- ① 自動車を洗う時は、出来るだけバケツで洗う (担当：山中)
- ② 水道の水圧を調整し、節水を図る (担当：宇土)
- ③ 節水シールを貼付し啓発 (担当：宇土)

4. 4. グリーン購入の推進

- ① エコ商品の調査 (担当：宇土)
- ② エコ商品への切替 (担当：宇土)

B 6

環境活動のエネルギー別の CO2 量の取組結果評価

エコアクション21を試行した平成18年11月から経て、平成21年度における目標に対する実績は次のとおりであった。

目標	単位	平成17年度を 基準として	平成21年度実績	評価
工場二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ₂ /t	26.3 以下 (4%)	35.9	×
(電気の使用量の削減)	Kg-CO ₂ /t	18.0 以下 (4%)	31.4	×
(プロパン使用量の削減)	Kg-CO ₂ /t	7.01 以下 (4%)	3.28	○
販売二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ₂ /t	4.34 以下 (4%)	6.91	×
(軽油使用量の削減)	Kg-CO ₂ /t	1.52 以下 (4%)	1.82	×
(ガソリン使用量の削減)	Kg-CO ₂ /t	2.74 以下 (4%)	5.09	×
総廃棄物排出量の削減	Kg/t	0.465 以下 (3%)	1.40	×
総排水量の削減	m ³ /t	0.0553 以下 (3%)	0.1232	×
グリーン購入の推進	エコ商品品目数	8 以上	8	○

5. 1. 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減は、工場及び販売における目標を達成出来なかった。

電気使用量の削減について、使用量自体は対前年比 90.3%とマイナスであるが、販売・加工トン数比でみると前年同様比率が悪くなり達成出来なかった。

プロパン使用量の削減については目標を達成した。

軽油使用量の削減については取扱量の減少により、前年比 93.8%と削減出来たが、ガソリン使用量の削減については、営業活動におけるアイドリングストップ運動とエコ運転を推進しつつ、又、社有車を計 3 台ハイブリッド車へ買い替えたりもしたが、販売量の落ち込みにより、営業の訪問件数強化を指導したという経緯があった為か、使用量自体が前年比 2.7%増加した。同様に販売・加工トン数対比ではどちらも達成出来ていない。

年度末に 1 台、22 年 4 月に更に 1 台と、社有車の削減を行ったので来年度に期待したい。

5. 2. 総廃棄物量排出量の削減

総廃棄物排出量の削減は、目標を達成しなかった。数量も増えていた。

5. 3. 総排水量の削減

総排水量は、目標を達成しなかった。使用量自体も対前年比 112.3%と増えているが特に大量に使用した実績は無い。雨が少なく、花壇の水やりが増えたのと、黄砂の影響で社有車の洗浄が増えた影響だと思われる。

5. 4. グリーン購入の推進

エコ商品への切替、21 年度は 8 品目の実績を挙げることが出来た。作業服等、あらゆるジャンルのものがエコ商品として販売されている。今後も更に調査し、替えられるものから推進購入を行っていきます。

6. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情もありませんでした。

7. 周辺及び工場内環境美化活動の推進

当会社所在地地域は工業地域であり、周辺には空き地もあり、野放しの雑草も生え、ゴミ類もある。平成 21 年 6 月 26 日に北九州道路サポーターの認定を受け、近隣の清掃を行うと共に、工場内の空き地に緑化や花植え活動を行っている。

